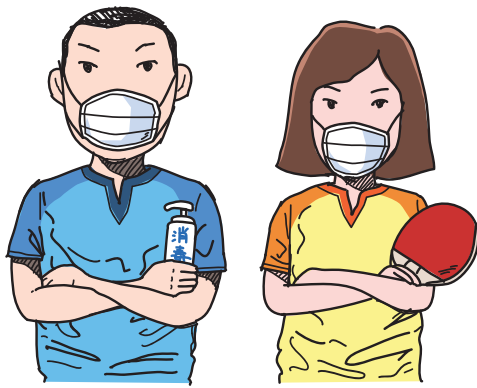


# 参考にしたい! 強豪校の コロナ対策



地域によって期間の長さには違いはあっても、学校が休校になり、卓球部の活動自体も休止しなければいけない期間が続いた。地域や学校によって事情は様々だろう。卓球の強豪高校として知られる2校に、コロナ禍での、それぞれの卓球事情とコロナ対策を聞いた。

## 山口

答えてくれた人  
橋津文彦先生  
(野田学園高校  
男子卓球部監督)



↑抗菌済みの卓球場で、球出しをする橋津先生

## 野田学園高校

### コロナ禍での練習状況を教えてください

3月2日から休校になり、我が卓球部も4月10日から活動休止。部員の多くが寮生活なので、彼らはそれぞれ実家に帰りました。約1カ月後の5月17日に、保護者の皆さんが協力し合って、公共の交通機関は使わずに選手たちを山口に送り届けてくださいました。ただ、山口に帰ってきて、全員が寮に戻ってしまおうと密になるということから、一部の選手をホテルに移し、しばらくの間はひとり部屋になるように配慮しました。

晴れて練習を再開出来たのは、6月1日です。ローテーションを組んで、通常の7割程度に人数を抑えて行うようにしました。現在は、選手の体調管理を徹底しながら選手の人数を調整してローテーションで練習を行っています。

### 野田学園ならではの「コロナ対策」はありますか？

秋、冬になるとインフルエンザや風邪

で体調を悪くする選手がいます。そこでもいつもお世話になっている日本卓球協会のスポーツ医・科学委員会の副委員長でもあるドクターの小笠博義さんに相談し、先生のアドバイスを受けて、コロナ禍の前からマスク着用、手洗い、うがいを履行していました。

6月以降、人数制限もして、卓球場では約1時間おきに換気を行うなど、日本卓球協会のガイドラインをもとに、我々ができることはすべてやろうというスタンスで最大限、コロナ対策を行っています。とくに手洗いについては、相当に効果があると実感しています。それまで毎年、体調を崩す選手が必ず何人かいたのが、手洗いを始めてからは、めっきり減りました。

さらに8月21日に専門業者に卓球場と寮の「抗菌作業」を行ってもらいました。

無味無臭で人体には無害の抗菌剤(鉄ミネラル100%の液体)を特殊スプレーで卓球台やトレーニング器具、ドアノブ、柱、ネットなど多くの人が触れるものに隅々まで吹きかけて、抗菌コーティングを施すのです。寮でも、トイレや共有スペースなどに施しました。インフルエンザやノロウイルスなどへの効果が確認されていて、持続期間は約5年と聞かれています。

↓専門業者がひとつひとつ丁寧に、抗菌コーティングを施す様子



抗菌コーティングのことは、以前に明治大学の卓球部で行ったことを高山幸信監督から聞いて知っていました。ただ、きっかけになったのは島根の高校でクラスターが発生したこと。このニュースを聞いて「うちでもやろう」とすぐに行動に移しました。その結果、安心して練習ができる環境が整ったので、非常に良かったと思っています。

### 今後の目標は？

普段の生活ではマスクを着用していませんが、卓球場内ではマスクをしなくても安心して卓球に打ち込めるようにしてやるのが私の務めだと思っています。その取り組みのひとつが抗菌コーティングです。また、同じ寮に住み、同じ場所で卓球練習をしている選手たちが、新型コロナウイルス感染症にかからない、ましてやクラスターを発生させないためには、細かいスケジュールリングが必要になります。食事の時間をずらす、入浴の時間をずらすなどをして、とにかく密にならないように注意しています。今こそ、私がリーダーシップを発揮すべき時。新型コロナウイルス感染症を「正しく恐れて」対応していかなければならないと思っています。

現在は、活動休止後に初めて行われる大会である全日本選手権の予選に向けて全員が頑張っています。(8月下旬取材)